



一人の青年弁護士から始まった物語 ～ロータリーと職業奉仕の誕生

2026年5月10日

国際ロータリー第2650地区 職業奉仕副委員長

村島 靖基

1

(大和高田RC)

ロータリーアンだった著名人



ポール・ハリスの誕生とロータリーの創設

ポール・ハリス (Paul Harris): 創設者。ヴァーモント州出身

⇒1868年生 両親が不仲であった為、ヴァーモント州の祖父母の家で育つ。両親がいない寂しさで悪戯っ子だった

⇒バーモント陸軍士官学校、バーモント大学(退学)、プリンストン大学(中隊)、アイオワ大学にて法学の学士取得

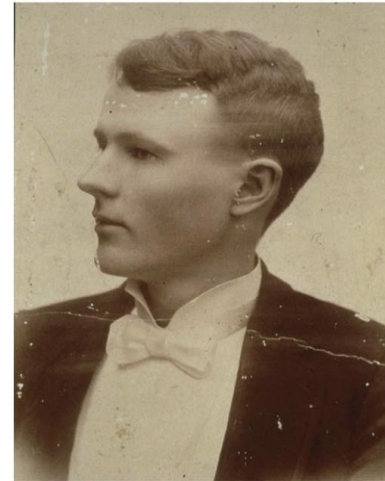
⇒1896年 シカゴにて法律事務所を開設



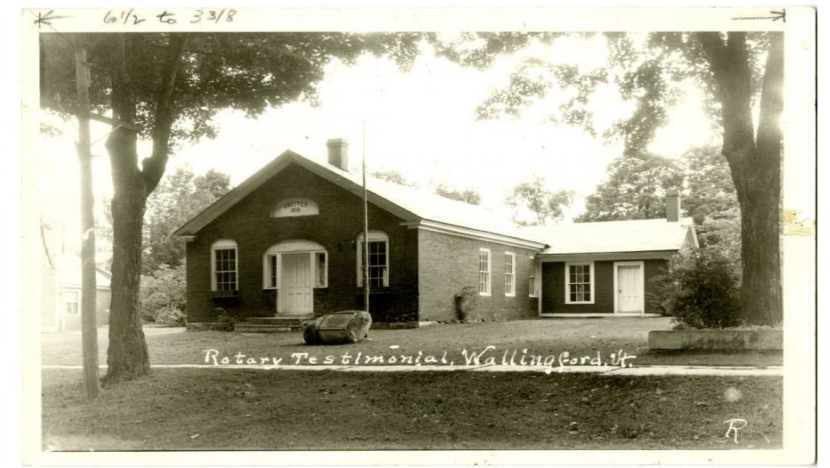
バーモント陸軍士官学校生時代のポール・ハリス



バーモント大学時代のポール・ハリス



1891年にアイオワ大学法学部を卒業した直後のポール・ハリス



ポール・ハリスが子ども時代に通った学校。バーモント州ウォリングフォード、1933 - 1938年頃

ロータリークラブの創設と名前の由来

「信頼できる友達ができれば、その友達の中でビジネスチャンスが生まれてくるかもしれない「ビジネスの推進と親睦を両輪にした集まりが出来ればいいな」シルベスター・シール(石炭商)に相談、「お互いに信頼できる関係をつくる事ができたら素敵ですね！一緒にやりましょう！」



第1回の会合 夕食後 鉱山技師ガスター・ローアの事務所にて開催
1905年2月23日 シカゴのディアボーンストリート ユニティビル711号室

ポール・ハリス (Paul Harris) : 弁護士

シルベスター・シール (Silvester Schiele) : 石炭商

ガスター・バス・ローア (Gustavus Loehr) : 鉱山技師

ハイラム・ショーレー (Hiram Shorey) : 仕立屋

入会資格は一業種1人、経営者



第2回の会合 名も無き会合 ポール・ハリス事務所

1905年3月9日 参加者: 最初の4人に加えて

ハリー・ラグルス (印刷業)

ビル・ジェンセン (不動産業)

A/L アル・ホワイト (オルガン製造)

会員資格 異業種の長、会合は会員の事務所を持ち回りとする



ロータリークラブの創設と名前の由来

1905年3月23日(3回目の会合)

シルベスターシール(石炭商)の事務所 参加者:15名

自分たちが信頼できる仲間が15名集まった、「会の名前どうする？」

「お互いの事務所をぐるぐる回るんだろ、ローテーションクラブ」

「事務所をぐるぐるまわて、事務所の人が司会をするめずらしいクラブ」

「ローテーションクラブというのはどうだ？」(ゴロが悪い?)

「ロータリークラブというのはどう！」⇒「**ロータリークラブ**」に決定

会費はとらない、親睦団体だから、ミスターをつけずファーストネームで呼ぶ

関係づくり、ミスターと言ったら罰金。いかがわしい話、宗教、政治の話も罰金。

初代会長⇒「**シルベスター・シール**」に決定

You Tube「奉仕の一世紀」(講談)より

会食とロータリーソングの誕生

第4回会合 ハイラム・ショーレー(洋服屋) 1905年4月6日

第5回会合 ウィリアム・ジェンセン(不動産会社)

第6回会合 ハリー・ラグルス(印刷所) 1905年5月6日

会員事務所の会合は今回で終了

第7回会合 パーマー・ハウス・ホテル

会員数が多くなり、会合を開ける会員の事務所が限られてきたのでホテルを借りた。

その後、ブレブルト・ホテルに会場を変え、夕食が出された。

その後、**例会は通常一週おきに夕昼または夕食を兼ねるという伝統が始まった。**

その後、ホテルとレストランを順番に回った。

シャーマン・ホテルが手狭で改修後、1911年1月ここを恒久的な例会場と決定。

1905年10月頃の例会にて

会員数:30名

ハリー・ラグルス(印刷業)が会合の中で一瞬「シーン」となったその時、「さあ歌おう！」「歌おう！」

と提案、みなで歌うと「もっと心が近くなる、もっと親睦が深くなると思うんだ、みんな歌おう！」

⇒**これがロータリーソングの伝統の始まり**

社会奉仕の始まり

1906年 ドナルドカーター(特許弁護士)に入会を誘った際に、利己的なクラブに将来はないと入会拒否
「親睦、ビジネス推進だけでは長続きしない。自分のための団体では役に立たないとなれば辞めていく。せっかく街で一番の人物があつまっているのだからこそできる事をした方が良くはないか？」

「シカゴは大発展をとげているが、でも街の中でトイレに行きたいと思ったときに行けるトイレはあるか？ 無いな、いつも俺も走ってるよ。それだけではない街はずれには貧しい人が住んでいる。ロータリークラブの人々は一流の人々、この街で一番と言われている人々だからあまり知られていないかもしれないけれど。あの街外れに住んでいる貧しい人々の事が気にかかるんだ、あの人たちのために何かしたいと思っても俺一人でできる事は限られている、でもロータリークラブの皆さんと一緒に困っている人々の為に何かしてくれるとなればこんな有難い事はないと思って。」

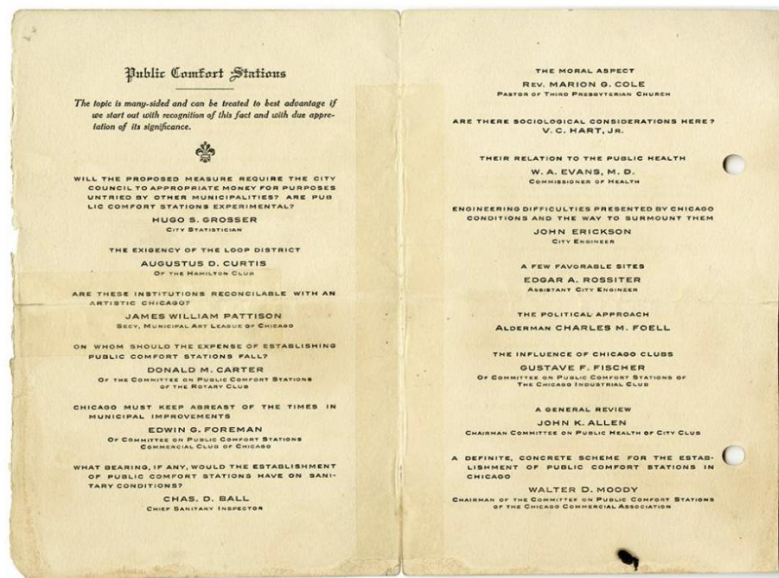
「いま集まっている皆は確かにビジネスの推進、親睦を深めるために集まっているかもしれないけれど、心のどこかでドナルドと同じような考えをもっている人もいるはず、ドナルドの考え方は社会奉仕という考え方、もしもロータリークラブの一つの大きな目的になればこのロータリークラブに入ってくれるか？」

「ドナルドカーターの思いを受けてロータリー会議に諮ったところ、みんなで社会奉仕をやろう！」「一人では何もできないけれど、みんなで力を合わせれば出来る事があるはずだ」「このロータリークラブでシカゴの街を良くしよう！」

You Tube「奉仕の一世紀」(講談)より

定款に「シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める」を追加⇒社会奉仕の始まり

シカゴロータリークラブの社会奉仕



1907年10月24日、シカゴ・ロータリークラブが主催したフォーラムのプログラム。

米国イリノイ州シカゴのラサール通りとワシントン通りの公衆トイレの入り口。1955年2月以前の写真。これらの入り口は現在では存在しない。

地域の団体と一緒に公衆便所を作る、困っている人がいればそこに食料を持って行ったり学業ができない子ども達には学業の機会を与えたり、そんな活動をシカゴでし始めたのでロータリークラブはどんどん知名度を上げていきました。

「最近シカゴの街がどんどん良くなってきたのはロータリークラブさんのおかげですね」
ポールハリスは「シカゴの街をよくするだけでよいのかな？これが全米、全世界に広がったならば素晴らしいのにな」

You Tube「奉仕の一世紀(講談)より

ロータリークラブが全米に広がる

1908年: サンフランシスコ・ロータリークラブ(第2のクラブ)

1909年: オークランド、シアトル、ロサンゼルス、ニューヨークの各クラブ

1910年: ボストン、フィラデルフィアなど

全米で16クラブの連合会

ロータリークラブ国際連合会(後の国際ロータリー)が設立

会長 ポールハリス、事務総長 チェスリー・ペリー

ニュースレター「The National Rotarian」発刊開始

『The Rotarian』に名前を変えて発刊

日本の初期のクラブ

1920年: 東京ロータリークラブ(日本初)

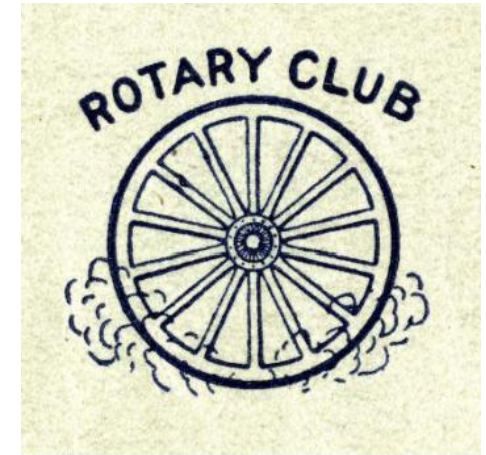
ロータリーの徽章の軌跡

当初はロータリーという名前から車輪を思い描いたシンボルだった
フィラデルフィアでは車輪ではなく、クラブの会員がお互いに一緒
になってお互い一緒に絡み合って、絡み合いながら手に手を取り
合って頑張れるようにという事で、車輪のところに歯をつけて歯車
にしている。フィラデルフィアは19番目に加盟したクラブなので
歯の数を19個にしてある。

それはいい考えだ！歯車の周りに19個の歯がついたシンボルが
提案され使われる事になった。が、当時はそれぞれクラブ独自案
の時代だったので、バラバラな徽章を使っていた。

そんな中一人のエンジニアが声をあげた「ロータリークラブは
プロフェッショナルな集まり。自分の仕事に誇りをもっています
エンジニアからみてはその歯車の形では噛み合わない。」
プロフェッショナルなエンジニアから見た合理的な歯車にしよう
中のスポークの数は6本、歯車の数は24、空回りしないように
楔穴まで設けたのでした。

1929年のダラス大会（最初の提案から17年が経っていた）



シカゴ・ロータリークラブ徽章（1906年頃）



You Tube「奉仕の一世紀（講談）より

奉仕の理念と2つの公式標語

The Ideal of Service ⇒ 「奉仕の理念」

⇒他人のことを思いやり、他人のために尽くすこと

1989年規定審議会にて採択

第一標語 Service Above Self 超我の奉仕

第二標語 One Profits Most Who Serves Best

最もよく奉仕する者、最も多く報いられる

アーサー・フレデリック・シェルドン

1. 1910年 第1回全米ロータリー大会(シカゴ)

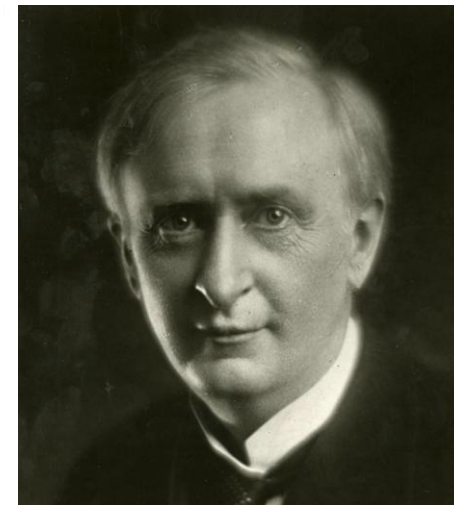
この大会の最終日の晩餐会で、シェルドンは奉仕哲学に関する歴史的な演説を行いました

「サービス学」の提唱: 19世紀の「弱肉強食」の競争主義を批判し、**20世紀の実業人は利益を他人と分かち合う「サービス学」を遵守すべきだと説きました**

ビジネスの定義: ビジネスとは「人間的な奉仕の科学 (science of human services)」であると力説しました

正しい行為の価値: 「他者に対する正しい行為の科学のみが報われる(引き合う)」と述べました

モットーの誕生: 演説の結びに、後にロータリーの公式標語となる「**仲間に最もよく奉仕する者が、最も多く報いられる (He profits most who serves his fellows best)**」という言葉をはじめて披露しました



- 1868年 ミシガン州バーノン生まれ
ミシガン大学経営学部で販売額専攻
- 1902年 シェルドン・ビジネススクールを開講
- 1908年 シカゴロータリークラブ入会
- 1910年 全米ロータリー連合会
初代 Business Method委員会
委員長就任
(職業奉仕委員会(1927年)の前身)

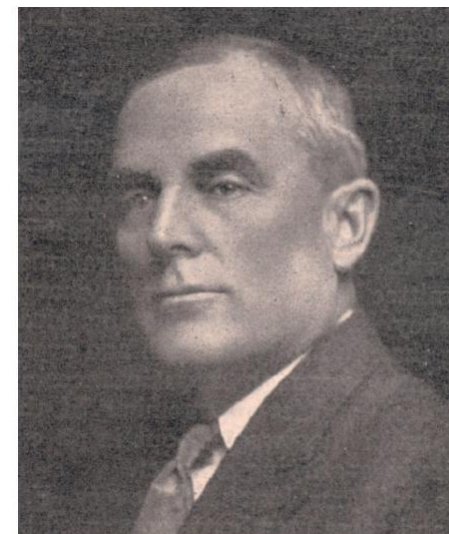
シェルドンの経営学＝近江商人の「三方よし」

ベンジャミン・フランク・コリンズ

1911年 全米ロータリークラブ連合会年次大会(ポートランド大会中)
コロンビア川のポートクルーズでミネアポリスロータリークラブの会長が演説

「どうしたらロータリーを興味深いクラブに出来るかを熱く語った。

- (1) 月1回の例会を毎週会合にする事で出席が良くなった
- (2) ロータリークラブが設立以来遵守してきた原則を守る事
「Service Not Self」(後に「Service Above Self」)なる)



フランク・コリンズ

「Service Above Self」⇒「超我の奉仕」(無私の奉仕)

- ① ① 自分の利益よりも先に、社会や他者への貢献を考える」
ビジネスや日常において、「これをどうしたら自分が得をするか？」
という思考ではなく「これがどう社会や相手に役に立つか？」を まず考える
思考のこと

四つのテスト

ロータリアンのみならず、一般の職業人も理解できるように簡潔かつ的確に纏めたものが「四つのテスト」

「四つのテスト」は、1932年倒産の危機に瀕していたクラブ・アルミニウム社(従業員数250人)の経営再建の為に考案した社員の行動基準。5年後借金完済、15年後多額の配当開始

「会社の誰もが憶えられて、我々が関わる他人に対して、我々が考えたり、言ったり、行動したりするときに応用できる、ある種の道徳的な指標が必要であった」ある朝、両手で頭を抱えていた時、頭に思い浮かんだ言葉を書きとめたのだ。(ハーバート・テーラー)

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

事業の立案・企画・実行はこれに照らしてから

1. 嘘・偽りはないか
2. 関係者すべてに公明正大か
3. 信用を高め、より良い関係を築けるか
4. 関係者すべてに有益か



ハーバート・テーラー
シカゴRC会長
RI会長
1954年に版權を
ロータリーに譲渡

職業奉仕委員会とは

職業奉仕は「職業を通じて社会に奉仕する」、職業そのもので社会に奉仕する事

職業奉仕委員会は、会員に職業奉仕をしてもらう為の指導激励の機関

【具体的な活動例】

四つのテストを例会場に掲げ、斉唱し、理解を深める。

事業所や家庭に四つのテストのプレートを送り、その利用方法を聴く
会員の職業関係のスピーチを企画し事業の成功法、苦労話を聴く
業界の専門家や成功者の講和を伺う

優良事業所の見学（そこを会場として例会開催）

職業奉仕フォーラムの開催

地域活動に貢献されている方への表彰

高等学校に出張し学生の将来の職業について話をする

ロータリークラブとは

ロータリークラブは、はじめに親睦、友愛があり、ここから職業奉仕が生まれ、社会奉仕に成長し、それが広がって国際奉仕、青少年奉仕になったものであり、これらを一貫した思想を「奉仕の理想」と呼ぶようになった

ポールハリスは「例会に出席すると童心に帰ることが出来る」と述べ、ある先輩は「例会の1時間は神様になる時間だよ。」と申されております。

なぜ、例会に出席すると童心に帰り、神様になれるのでしょうか？それはロータリーの例会に競争者も、警戒する人物もおりません。基本的には職業分類によって同業者もおらず、目上の人や家来も子分もおりません。

ロータリーアンはみんな平等であり信用できる人ばかりの集まりであるからです。競争心も警戒心もなくなった時、人間はその本性を取り戻して善意が溢れて来るのです。

すなわち、ロータリーの例会は、その職業業務の忙しさにかまけ、緊張の連続のために善意を発揮しにくい実業家、専門家の埋もれたその善意を発掘し、高揚し、沸き上がった善意に奉仕という方向づけをなし、これを実践に移す勇気を与える事を目的とした会合なのです